

こんしゅう ふくいんし  
今週のことば「ヨハネによる福音書」

せいし ふくいんし  
《聖書》ヨハネによる福音書 2:1-11

## ヨハネによる福音書

ヨハネによる福音書が書かれたのは、  
一世紀の終りの九十年代と考えられてい  
ます。その頃になると、イエスがキリス  
トであるかどうかという点に関心がおか  
れなくなりました。

最初の福音書としてマルコによる福音  
書が書かれた頃は、イエスが神の子であ  
り、キリストなんだという点に関心がお  
かれていたのです。そこではむしろ、イ  
エスの行動のうちに、栄光にあげられた  
イエスの姿を見つけようとなりました。つ  
まり、ガリラヤで民衆と共に行動された  
イエスの姿の中に、神の子としてのキリ  
ストの姿を見いだそうとしたのです。

この努力によって、イエス・キリスト  
に対する信仰が、信仰箇条を信じるか、  
信じないかという教義的な面から解放さ  
れて、もっと日常生活と結びついた信仰  
へと導かれていきました。信仰とは、イ  
エス・キリストを信じるか、信じないか  
という点ではなく、むしろイエスに従う  
かどうかという点に問題があることを明  
らかにしました。

こうして、復活したイエスとの出会い

は、まさにガリラヤで行動したイエスの  
姿を知ることによって強められていった  
のです。

しかし、ヨハネによる福音書が書かれ  
た頃になると、直接にイエスを見た者が  
ほとんどいなくなり、ガリラヤのイエス  
は過去の人となってしまいつつありまし  
た。そこで、過去のイエスではなく、現  
代に生きているイエスを描く必要がでて  
きたのです。

## ヨハネによる福音書 に見られるしるし

ヨハネによる福音書においては、共観  
福音書（マタイ、マルコ、ルカによる福  
音書）において奇跡として伝えられてい  
たものを、「しるし」として伝えていま  
す。

奇跡物語は、ただ単に過去に生きたイ  
エスの偉大な行動ではなく、現代でもお  
こりうる物語として伝えられる必要がで  
てきたのです。それは、過去に生きたイ  
エスの奇跡ではなく、今も復活して生き  
ているイエスのしるしなのです。現代に  
生きている弟子である私たちは、このし  
るしを見て信じなければいけないのです。  
年間第2主日C年（滝野）